



自分に価値を
 感じられる場所が
 このまちには、きっとある

今回は、北本市内の様々な場所に足を運び、そこに関わる人たちに話を聞いた。

柳井則子さんは、「我が子のために」という思いで &green market や北本団地「中庭」にたどり着いた。やがて、自分自身がそこで流れる時間を楽しみ、安心して過ごす場になっていき、北本が「自分のまち」になった。その体験を『マーケットの学校』で話したところ、「胸が熱くなった」と声を掛けられ、「自分に価値を感じられるようになった」という。

『かがやきサロン』は、精神障がいに対する地域の理解を深めることを目的に始まった。ボランティアの皆さんが来た人との触れ合いを楽しみ、近隣の人が自分の居場所として来るようになったからこそ、障がいの有無に関わらず、皆が一緒に居られる場所になった。

自宅や職場・学校といった「居なければならぬ」場所のほかに、自分が「居たい」と思える場所があること。それは「お守り」のような安心感をもたらす、日常に楽しみを生み出す。そういう「場」が地域にあり、新たに作ることもできるからこそ、このまちが持つ、「豊かさ」の形なのかもしれない。